



今月のお便りは、皮膚・排泄ケア認定看護師の吉崎 美帆 (PHS : 3965) です

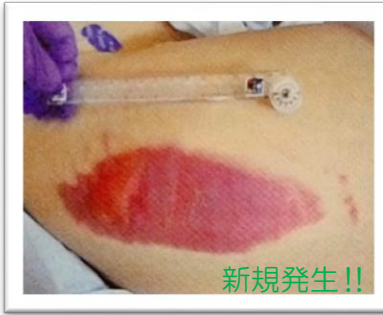
DESIGN - R®2020 の運用を開始して数カ月経ちました。DTI や臨界的定着 (クリコロ) の評価について困っていることはありませんか? 今回はDTIについて考えていきたいと思います。



Depth*1	深さ	創内の一番深い部分で評価し、改善に伴い創底が浅くなった場合、これと相応の深さとして評価する			
d	0	皮膚損傷・発赤なし	D	3	皮下組織までの損傷
	1	持続する発赤		4	皮下組織を超える損傷
	2	真皮までの損傷		5	関節腔、体腔に至る損傷
				DTI	深部損傷褥瘡 (DTI) 疑い*2
			U	壊死組織で覆われ深さの判定が不能	

この表が DESIGN - R®2020 の「D」深さの部分です。ここに「DTI」など新しく追加されました。DTIとは Deep Tissue Injury 深部損傷褥瘡のことです。褥瘡発見段階において表皮から判断する限り、浅い褥瘡のようにみえるが、実際は皮下組織が既に損傷を受けており、それが時間の経過とともに次第に壊死組織や潰瘍となり、深い褥瘡であることが明らかになる褥瘡で発見時はあくまでも表皮剥離がないd1です。

そうですね。
しかし、この褥瘡は発生したばかりの急性期褥瘡です。今後、1~3週間は発赤、紫斑、糜爛、水疱、潰瘍など様々な状態へ変化する恐れがあります。十分な観察と状態に合わせたケアが必要です。



新規発生!!

えーと、表皮剥離のない持続する発赤のみで「d1」ですか?



1週間後



3週間後



ここで、DTI (疑い)かもしれないと考えてみましょう。DTIは比較的体格の良い人、若年者、術後・背損者などに起こります。この事例は写真で見る限り「やせ」ではなさそうです。また、DTIの見分け方として紫斑、2重発赤、皮下硬結、皮下の握雪感、熱感・冷感、腫脹、少しの圧迫でも強い疼痛などが見られます。深さの評価をする時は上記に述べた症状についても視診と触診で判断します。この写真では2重発赤や紫斑が見られていますので、発見時のDESIGN - R®2020の深さの評価は「DDTI 深部損傷褥瘡疑い」にします。

この褥瘡は急性期を越えて最終的な深さは「D4」。深い褥瘡でした。

DTI 疑いとアセスメントした時には、毎日の継続した観察がとても重要です。正確な深度が明らかになるまで、アセスメントを行い適切なケアがなされているのか評価が必要です。また、DESIGN - R®2020の表を見ると「DTI 疑い」となっています。褥瘡部分に表皮剥離や水疱があってもDTI 疑いと判断し、今までd1やd2の中に隠れていた重症になってしまう褥瘡に対して適切にケアを行い、炎症増悪や感染のリスクを低減させていくことが大切です。